

# 進路・職業選択に向けて 多彩なプログラムで 「根幹的な実力」を養成

● 京都産業大学



京都産業大学 共通教育推進機構

事務部長

林 誠次

## 学びを深める座学と実践科目

本学では、2003年からキャリア形成支援教育を推進し、これまでの10年間、社会の流れを的確に把握したうえで、プログラムを構築、実践している。あわせて、その教育は独立したものではなく、学部学科で行われる専門教育・教養教育を柱に、キャリア教育科目を初年次から開講し、学内（On Campus）と学外（Off Campus）での学びを交互に進め、理論と実践を融合させている。専門教育と協働した「コア教育」を全学展開し、社会と密接に連携した即戦力を養うプログラムとしている。

その体系的キャリア形成支援教育科目のスタートは、1年次生約2000人が春学期に受講する「自己発見と大学生生活」ここで新入生は、充実したキャンパスライフを送る心構えを養う。インターンシップも1年次から開講。「スタートアップ・インターンシップ」では、地元・京都の中堅企業・団体へのインタビュ調査などを通して、働きがいや魅力をレポートにまとめ、短期のインターンシップを体験する。

2年次以降のインターンシップも、多様なプログラムを用意。大学独自のもの等、2週間～1カ月の6つのプログラムを約210人が受講し、カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなどの海外インターンシップも実施している。これらは、世界をフィールドにしている企業や団体への理解を深め、将来の進路をグローバルな視点で考えるきっかけとなっている。

## 産学連携の人材育成プログラム

「O/OCCF・PBL」（オン／オフ・

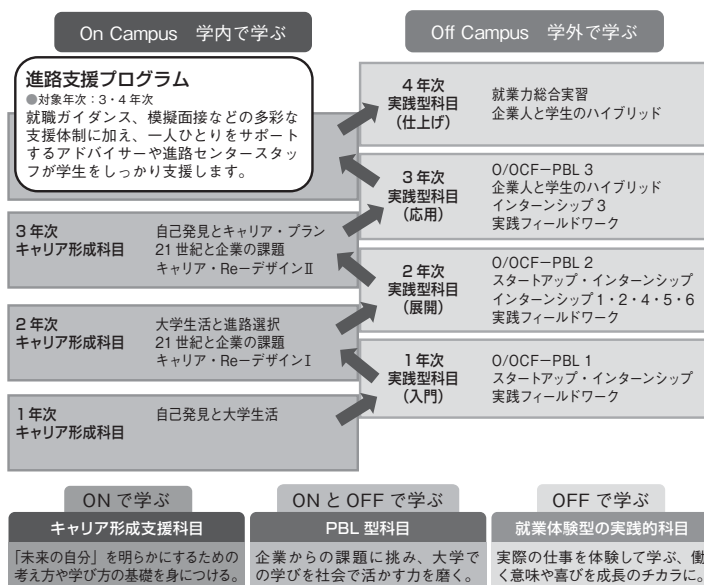
キャンパス・フュージョンプロジェクト・ベースド・ラーニング」と「企業人と学生のハイブリッド」も注力しているプログラムの一つで、企業や団体等が大学教育に参画して、協働で人材育成を推進している。

1～3年次生が継続して受講する「O/OCCF・PBL」（約360人受講）では、企業・団体から提示された課題の解決を目指す。1年次でチームワークをつけ、2年次で課題に取り組み、3年次で実社会での応用までチャレンジする。このプログラムは、2008年から2年連続して経済産業省の社会人基礎力育成事業に選定され、他のプログラムとあわせ、2010年には文部科学省の就業力育成支援事業にも採択された。

「企業人と学生のハイブリッド」は2～4年次生が受講し、学生3人が協力企業の若手社員1人と協働して、プロジェクトマネジメントに携わるとい構成のプログラム。期間は4カ月間で参加企業は約10社。学生は社会人と一緒に働くことでビジネスをリアルに体験し、責任感や遂行力を養い、参加する企業の若手社員は、自らの課題を、学生を動かして解決していく。こうしたさまざまな

## オン（学内）とオフ（学外）で学ぶ

### 実践志向型キャリア形成支援プログラム（イメージ）



まな教育プログラムの目的は、「明るく、元気、やる気もち、社会で主体的に生き抜くための、根幹的な実力」を備えた人材を育成することである。これら実践系科目履修者は就職率が\*高く、また就職後もその多くが明確な将来ビジョンをもって社会で働き、活躍している。

学生の主体的な進路・職業選択に向け、キャリア形成支援教育プログラムと連動させながら、就職支援プログラムを展開している。

（\*）根幹の実力とは、ヒューマンスキル、対人折衝能力・豊かな人間的能力、コンセプチュアルスキル、概念的論理的能力、テクニカルスキル、技術的・実践的能力の三つのスキルをいう。